

## 第2回（仮称）台東区産業振興計画策定委員会 議事録

日時 令和6年5月28日（火）  
会場 中小企業振興センター 2階会議室

文化産業観光部産業振興課

1 出席者  
(13名)

委員長	懸田 豊
副委員長	伊藤 匡美
委員	田村 和義
委員	金澤 守利
委員	長堀 慶太
委員	森本 佳直
委員	清田 祐次
委員	伊藤 康博 (代理出席 三木氏)
委員	岡崎 健一 (代理出席 小早川氏)
委員	平川 浩一
委員	関井 隆人
委員	内田 円
委員	上野 守代

2 欠席者  
(2名)

委員	田中 耕太朗
委員	西島 裕樹

3 事務局

文化産業観光部産業振興課

(午後1時52分 開会)

## 1 開 会

## 2 報告事項

### (1) 前回策定委員会の振り返り

#### ○事務局

—前回策定委員会の振り返りについて説明—

意見なし

## 3 議 題

### (1) 10年後の目指す将来像について

### (2) 施策の現状と課題について

#### ○事務局

—10年後の目指す将来像及び施策の現状と課題について説明—

#### ○懸田委員長

それではまず施策の現状と課題について皆様方にご意見をいただき、そのあとに今お話いただいた将来像についてご意見をいただくということにしたいと思います。それでは施策の現状と課題についてご意見はいかがでしょうか。

#### ○伊藤副委員長

亜細亜大学の伊藤と申します。ご説明ありがとうございました。とても網羅されているなという感じがしたんですけど、資料3の3ページの「事業承継・廃業」のところが気になりました。確かに事業承継とか廃業ってどちらかというとマイナスな感じのイメージが多いと思うんですけど、事業承継の形というのは決してマイナスではないと思うんですよね。事業承継の右側の現状と課題を見ると割とマイナスな話ばかりになっちゃうんですけど、前向きな事業承継というのをここから先、人口が減り、高齢化していく中で出てくるはずなので、そういったところも踏まえて事業承継の施策を立てていただければ良いかなと思います。あとは純粋な事業承継、子が継ぐという、そういうのを支援する台東区であってほしいなと思いますので、ぜひ明るさを出す事業承継の施策というのをに入れてほしいです。

また、10年後の目指す将来像のイメージですが、この図というのは外に出す予定

はありますか。

○事務局

計画の将来像として公表するものになります。

○伊藤副委員長

わかりました。廃業というのはとても重要な論点で、ここから10年、議論していかなければならない中心課題になっていくと分かるのですが、目指す将来像のイメージで廃業という字が出てしまうと、「廃業を目指しているのか」となってしまいますので、その扱いについて、ぜひ気をつけていただきたいと思いました。以上です。

○事務局

伊藤副委員長がおっしゃるとおり、資料3の3ページに掲げております事業承継につきましては計画の中でも重要な施策として位置付けさせていただきたいと思っております。ご指摘のとおり事業承継という言葉だけを聞いてマイナスのイメージを持たれないように、いわゆる早めの事業承継で、支援というところではプラスのイメージが持たれるような計画の表記の仕方を十分に配慮して書いていきたいと思っております。

また、目指す将来像で廃業という言葉を使うのかも含めて、事業者の方に誤解がないような形で将来像を定めていければと考えております。

○伊藤副委員長

戦略的廃業みたいな、そんな言葉ってないんですかね。

○上野委員

この廃業という言葉なのですが、前回の計画策定のときには、初めて事業承継という言葉が入ってきた計画になります。やはり廃業支援とは書けないので「事業承継」と書こうというのが前回の計画でございました。策定してから7年経って、いよいよ承継もできないというような状況というのが出てきているのは事実でございます。このあたりぜひ平川委員や伊藤委員代理に廃業のアプローチという部分について、支援機関ならではのアプローチというのはどういうふうにしていったら良いのか、お考えをお聞かせいただければなと思っておりますが、いかがでしょうか。

○平川委員

我々、東京都中小企業振興公社でも事業承継についてはお手伝いさせていただいているところですが、最近では第三者承継というところについて、かなり垣根が低くなってきているというのは実態としてあります。そういった中でこれから開業する方、目指す方というのも非常に多くて、たとえば技術を持たれた方と廃業せざるを得ない企業とのマッチングであったり、そういったところも今後は我々支援機関としても目指

さなければならぬと感じています。実際には点と点を結びつけなければならぬので、非常に難しい作業ではあるんですけども、こういった視点も今後重要になってくるのかなと感じているところです。

### ○伊藤委員代理

台東区しんきん協議会の三木でございます。廃業支援に関しては私も現場を何年か経験させていただいて、まず自分が創業者で年数が経って、いよいよ後継者がおらずどうしようという方と、二代目三代目の方がどうかして譲渡しようという方の2パターンあると思います。自分が創業者の方は、廃業に踏み切ることの難しさがあって、長年やっていて、なんとか継続したいんだけど、自分が元気なうちはまだまだ、ということでズルズルきてしまっている。二代目三代目になると事業承継をした経験があるので、バトンタッチするなんとなくのイメージが湧いて、そういう方には比較的スムーズにご案内ができます。

ご案内する際は廃業、あるいは事業承継の成功事例を示しながら進めていくということが大事かと思っています。

また、業種によっても経営者の考え方がだいぶ違って、特に製造業などで特殊な技術を持った方の事業承継なり廃業なりというのが一番悩ましいかなと感じています。

### ○上野委員

私たち行政が入ってなにかしらのお手伝いをする、どこの部分をお手伝いしたら良いのかというところが一番悩ましいところだと思っております。廃業しそうな方というんでしょうか、そうした方々が持っている財産、これは技術だったり人だったり、こういったものを次のやりたい方に継承していく仕組みを、支援の方向という部分で入れたうえで、廃業にも少し触れた何かというのを考えていきたいなと思っております。

### ○懸田委員長

言葉の整理を進めていくうえで重要になってくるわけであって、事業承継というのを同じ経営者の一族が業務を引き継いでいくというイメージだけれども、なにも自分の同族じゃなくて従業員であっても良いんですね。あるいは外部から来た人でも良い。そういう事業を継承していくことの重要性はあるし、廃業にすごく疑念があるというようにおっしゃっていただいているわけですけども、廃業というのはなかなか行政が取り上げるのに難しいテーマであります。経産省でも「流通ビジョン」で、今までは店を増やすためのシステム化とか論じていた中で80年代の「流通ビジョン」で古いですけども、そこで初めて退出という言葉を使って、それをどうスムーズに退出していく地盤を作っていくかということが書かれているし、開業と廃業と継承の3

つが重要で、それをどう行政が捉えるかという、根本を議論していただければと思います。他に今の、廃業も含めてですけれども、なにかご意見はございますか。

#### ○清田委員

廃業とはまた別なのですが、施策の現状と課題を説明いただきまして、台東区の施策ごとに、助成制度があって、新しく事業を展開したときにそれに対する助成制度というのがあるのですが、事業者の方に有効に活用されているのでしょうか。

また、事業者の助成制度の使い勝手みたいなところのご要望等があればそういった使い勝手のところも工夫されれば良いのかなと思っております。

#### ○事務局

まず個別事業者への助成金となりますと産業振興事業団で実施しているメニューとしては現在 10 を超えるメニューを展開しており、その中で助成額 50 万円以上の審査を要する大型助成金と、それ以外の審査を要しない助成金と 2 パターンを用意しております。大型助成金においては、助成後 3 年間、専門のスタッフが後追い調査を実施しており、その中で売上につながったのかや、需要確保につながったのかというような効果を伺う中で、6 割から 7 割の方から肯定的なご意見をいただくとともに、こういう助成金があったら助かるという話しも併せて聞いております。それ以外の助成金のメニュー、構成についても経営相談の中でニーズを踏まえ新規メニューの創設や廃止を行っている状況でございます。

また、産業振興課では区内の商店街や地場産業団体等への支援を行っております。団体等が発展していくためのイベントへの助成だとか人材育成も含めたところの取組みについて各種助成制度を活用していただいているところです。先ほど申し上げたとおり、区内産業を発展させるために区内産業団体の力というところはとても必要なところだと感じておりますので、引き続き助成制度を活用していきたいと考えております。

#### ○伊藤副委員長

SDGs というのが産業と現状の課題のところで出てきています。SDGs というのは国連が定めた 2030 年までに達成すべき目標ということになっておりまして、おそらく 2030 年以降は後継のなにか違うキャッチフレーズが出てくると思います。こちら今作っている案は 10 年後ということですので、もしかしたら 2025 年ぐらいに SDGs の後継が出てきちゃうかもしれませんので、あまり流行語というのを使ってしまうと 10 年後、たとえば DX とかもそうだと思うんですけれども、10 年後使っている自信がないという単語はあまり使わないほうが良いのかなと思いますので、そのあたりもご検討いただければと思います。

## ○事務局

伊藤副委員長ご指摘のとおり、今ある言葉が10年後にはまた違った形でというところは往々にありえるところだと思いますので、資料2の1枚目の新たに重視する考え方のところ、②に記載の柔軟性の高い計画、また③の機動的・効果的に目的を達成する計画というところで言葉の表記しかり、社会情勢の変化に対応できるような新しい計画を作ってまいりたいと思いますので、委員の皆様のお知恵、ご助言等をいただければと思います。

## ○長堀委員

SDGsが2025年頃になくなりそうだというお話があったんですけども、その理由がどんな背景があるのでしょうか。

## ○伊藤副委員長

SDGsは国連が2030年までに到達すべき目標として定めたものです。そのため2030年以降は違う言葉に置き換わるだろうというのがだいたいの既定路線です。2030年までは使うと思いますが、そのあとの後継がおそらく数年前に出てくると思いますので、2025～2027年ぐらいからだんだんSDGsじゃない、中身はSDGsなんですけど、流行り言葉にきっと変わっていくのだろうと思います。

## ○長堀委員

私はジュエリー業界なのですが、今ジュエリー業界もSDGsの17項目のうちいくつかを使って、業界としてサステナブルな取組を検討しています。そうするとそれも2030年に向かって死語になっていく可能性があるのでしょうか。

## ○伊藤副委員長

サステナブルという言葉自体は、おそらく地球を持続していかなければならないので残ると思いますが、今みたいなSDGsというブーム的なものというのはおそらくなくなります。2015年ぐらいから突然作り出したSDGsのブームなので、おそらく2030年を過ぎたらみんな忘れて、次に移っていくのではないかなという気はします。

## ○懸田委員長

それは言葉の文言上の問題なのか、社会情勢的な規定が変わるのかということも議論しなければならないし、柔軟性の高い計画ということを目指すわけですから、そういった社会環境の変化ということも、あまり現状にとらわれてしまうことは考えたほうがいいのではないかと、というご意見だと思いますのでよろしく願いいたします。

### ○事務局

資料2の2ページ目左上にある目指す将来像のキャッチフレーズを、次回の第3回の策定委員会では、本日皆様からいただいた意見を整理したうえでお示ししていきたいと考えております。オレンジ色で事務局案として台東区というまちの産業が10年後どうなっていたいかというところのキャッチフレーズ案を出させていただきました。皆様の中で、こちらに書いてあるものでこういう表現は良いよねとか、こういう要素も新しく入れたほうが良いのではないかと、のようなご意見がありましたらぜひこの場でいただきたいと思っておりますがいかがでしょうか。

### ○懸田委員長

今はアイデアベースでよろしいかとは思いますが。前回は「世界に躍動する産業都市 たいとう」というキャッチフレーズだったわけですが、それに比べて地に足をつけたというか、小さくなったなというイメージがありますけれども。挑戦する事業者、魅力ある事業者が集まるまち、「まち」ってなにか違うのかなという印象が私はします。

### ○事務局

懸田委員長からご指摘いただいたとおり、事務局案は4つすべて「まち」で体言止めで示していますが、「～なまち」である必要はもちろんございませんので、キーワードだったり、こういう表現じゃないほうが良いのではないかと、みたいなものも含めて、ざっくばらんにご意見いただければありがたいと思います。

### ○伊藤副委員長

目指す台東区の産業の将来像ですよ。

### ○事務局

事務局案で示させていただいた4つですね、ざっくりとは書かせていただいておりますけど、4つとも重要な視点だと考えながら事務局案として出させていただきました。この中で1つだけに決めようというところは難しかったりもするので、こういったところのフレーズの中でこういう表現は残しておいたほうが良いとか、この視点は重要だから取り入れましょうとか、あとフレーズも1つというよりもこういうふうな羅列させていただいたとおり、いくつかの要素を含むようなキャッチフレーズというところも場合によってはありえると思います。皆さんの意見を踏まえて次回の策定委員会に出せるようにはしたいと思っておりますので、自由な意見を出していただければありがたいと思います。

### ○伊藤副委員長

施策の方向性1、2、3という大きな3つの柱を意識されているんですね。ですから、1に関するもの、2に関するもの、3に関するものというのを入れてキャッチフレーズというのを作ると、事業者レベル、区内のレベル、外部環境を意識したレベルというようなキャッチフレーズになるのではないかと感じました。

### ○懸田委員長

要するに事業所レベルと産業と環境の3つを込めたらどうかと。台東区の産業振興計画を練っていくうえで、なにを一番に目指すというか、もっと飛躍しようということなのかと思いますけれども、どうなんでしょうか。

### ○上野委員

今回事業者に向けてわかりやすいキャッチフレーズが良いなと思っています。その中でたとえば皆さんが挑戦しやすいとか、つながっていけるとか、自分の仕事に誇りを持てるとか、良い循環につながっていくとか、そういう前向きなイメージを事業者が持てるようなものにしていきたいと思っています。こんな言葉があったらもっと勇気が湧いて仕事を一生懸命できるというか、もっと台東区が良くなるんじゃないか、というような印象の言葉があったらご意見いただけるとありがたいです。

### ○森本委員

台東区商店街連合会の森本と申します。今まで商店街活動をやってきて、台東区の施策は挑戦する事業者を応援するという、そういうことを僕は身をもって体験してきたなと思います。盆暮の売り出し事業に手を挙げた商店街に対して助成するという、そういう積極的なことはずっと30年ぐらいやってきたと思います。なので「挑戦する事業者」という言葉がすごく良いんじゃないかなと思います。

### ○懸田委員長

おしなべてみんなを助成するという、政策の対象とするということよりも、挑戦するとか、意欲があるとかっていうのがずっと言われています。そういうのをクローズアップしていったらどうかというご意見かと思います。

他になにかご意見ございますでしょうか。細かいことでこだわるんだけど、推進主体は将来像に対する主体なのか。

### ○事務局

資料2の2ページの一番右下に記載しておりますが、目指す将来像を実現するために1から3までの歯車を回していく主体として、台東区だけではなく業界団体、また支援機関、事業者の皆様とともにこの歯車を回し、目指す将来像と一緒に実現したい

ということで推進主体として位置付けております。

#### ○懸田委員長

この推進主体があいまって目指す将来像を作り上げていく、個々の事業者が目指すべき、自分の経営を含めて目指す将来像と思いますけれども。

#### ○伊藤委員代理

台東区しんきん協議会の三木です。思いつきですが、この4つのキャッチフレーズ、見るとみんな日本語なんです。たとえば挑戦を英語にするとチャレンジになるかなと。歴史だったらヒストリーだし、技術だったらテクノロジー、こういう、10年後というとグローバルな人が来たりだとか、若者がいよいよ創業するとか、そういう時代みたいなものにつながると思うので、カタカナを入れたほうが良いのかなと思いました。

#### ○長堀委員

ジュエリー協会の長堀です。協会の意見としてお話をさせていただきたいんですけども、台東区は観光業あり、小売業あり、製造業あり、卸売業ありと、おそらく非常に多くの業態がひとつの区の中にある区であり、それが特徴だと思います。ジュエリー業界も、一言でジュエリー業界といっても、ジュエリーの小売業もあり、製造業もあり、卸業もあり、周辺の材料とか工具を売っている会社もあるので、なかなか断定的に業界の現状をお話するのが難しいんですけども、ジュエリー業界のトレンドとしましては、資料3の現状と課題を見ているとネガティブワードとポジティブワード、どっちが多いかというと、明らかにネガティブな表現が多いので、やはりその課題解決をするという方向感をつけたほうが良いのではないかと思います。ジュエリー業界に関してはたびたび私が申し上げているとおり、技能者は後継者不足でだんだん減っていて、廃業の数も増えているということで、他の台東区内のカバンとか靴とほぼ同様のトレンドだと思います。今、ジュエリー業界でも、台東区に限らず他のエリアでも同様の傾向が続いていて、このトレンドをどうやって食い止めたら良いのかを協会内で話しています。ですからさきほどSDGsが死語になるという話がでましたが、私はサステイナブルシティとか、サステイナブルという言葉そのものは事業の承継とか持続ということを意味するので、流行語なのかもしれないですけども、そういったワードを入れてはいかがかなと思いました。

#### ○懸田委員長

地場産業が多いし、中小企業が多いしという背景があって台東区を特徴づけているわけですけども、もう少し明るく、一般的なフレーズでやったら衰退の集積じゃな

いかって捉えられちゃったりするから、そこをもっと楽しい明るい産業という捉え方ができるようなフレーズというものを考えていただければと思います。

### ○田村委員

東京商工会議所台東支部の田村と申します。台東区全部を網羅するとなると非常に難しいと思ったんですが、結構伝統的な商売をされていてもうまくいっているところは、裏側に行くとテクノロジーというか、いろいろITを活用したりしているのがあって、表側から見えるものと実際にうまくいっているものとはちょっと違ったりするということが結構多く、伝統文化とか歴史の裏側にはテクノロジーがあります。そのような古いものと新しいものを織り交ぜたようなキャッチフレーズというのも面白いのではないかと思います。

### ○金澤委員

東京靴協会の金澤です。「世界に躍動する産業都市 たいとう」と言われてもちょっとピンとこなかった。我々は台東区の地場産業というと靴、靴、ベルト、帽子などの産業である。その中で現状と課題を聞いたときに、小規模な事業者、製造業が廃業予定者が多いということだったが、それは我々の靴、地場産業の靴、ベルト、靴産業でも廃業予定者が多い。先ほどからご意見が出ていたんですけど、廃業するにはそれなりの事情があります。廃業するところをゾンビのように生かしてもしょうがないので、スクラップアンドビルドみたいな、その場に外部から新しき力、台東区自身が魅力ある都市にということにさせていただくというような政策、助成金ですから、世界に躍動する産業と言われても、引っ掛かってしまった。地場産業都市というか、台東区には文化伝統、地場産業がある。その地場産業をより良くするという中で、施策の現状の課題で出ている、家賃高騰、物件少数は新しく外から入って台東区で事業をやろうというときに非常にデメリットになるので、このあたりの助成金というのは行政なりにいろいろな形で協力していくということだと思う。

台東区の特徴というのは伝統文化、地場産業、ジュエリーだとかそういうことなので、そこでやはり助成金とか、全体の力で起業創業という魅力のある台東区に集積があるという形にしていただきたいし、そのキャッチフレーズが、ただ挑戦者、事業者とか言われても、何から挑戦して良いのかということがある。

やはり台東区自体の特徴、それと伝統文化、商店街もあるんですけど、商店街でも谷中商店街のような良い商店街もあれば、落ちていく商店街もあるんです。伝統工芸品も東京都の42品目でもインバウンドの外国人に経験ができる文化がというのが少ないと思うんですね。それと、日本国民とか都外から台東区の伝統文化というのはどんなものがあるのか知っているのかということ、それもたぶん広報の力が弱いのか、まだ発信力が足りないのか、そのあたりの非常に魅力のある発信ができていない。

発信ができていないのに伝統文化って非常に大変なんだよというお話なので、そのあたりも含めて。グローバルな産業都市というのは無理なので、文化、伝統、商店街、寺社仏閣もあるので、そういうものをいかに有効に使っていくかという政策のキャッチフレーズを作っていたきたいと思います。

#### ○岡崎委員代理

生活製品課の小早川と申します。資料2の2ページ目を見てお話していますけども、先ほど長堀委員から台東区の特徴として多くの業態が存在することをあげられておりましたし、確かにそうだと思っています。前回の議論を聞いていても中小事業者の方が多くて、なおかつこれだけ工業化が進んでいる中で手工業的なものが残っているというのが台東区だとしたときに、キャッチフレーズなのか、旗印なのかかわからないですけども、その人たちにとってわかりやすく、目指す先となる旗印になると良いのかなと思いました。

以前、物流施策に携わっていた際、各省庁や事業者が縦割りで取組を推進するのではなく、一体的に取組み、物流を維持・発展させていくために、「フィジカルインターネット」という旗印を掲げて、ロードマップを策定したことがあります。今回も台東区の産業、中小事業者の皆さんにとって旗印となるようなビジョンになれば良いなと思って聞いておりました。

#### ○懸田委員長

そういう旗印をどう作るかということがこの委員会の課題でもあるわけですが、やはりいろんな産業、いろんな企業、いろんな企業の事業者が集まっている都市でありますから。それらをまとめる旗印がどういうふうに作れるかということ、そのときに挑戦する事業者と言われてもなにを言っているのかわからないというような意見もありました。3回目までに目指す将来像を作るというわけではないでしょう。

#### ○事務局

3回目、次回の策定委員会ときには本日いただいた意見を集約して事務局がまとめた案という形で将来像については改めて皆様に示させていただきたいと考えております。

#### ○懸田委員長

全体のスケジュールでいくと次回第3回の策定委員会までの間に意見聴取会があって、それぞれで議論されるわけですね。

#### ○事務局

次回の策定委員会、後ほどアナウンスさせていただきますが、8月の上旬に設定さ

せていただいておりますので、只今委員長からお話がありましたとおり、3回目の策定委員会の間にそれぞれのテーマごとの意見聴取会等をさせていただくと同時に本日皆様からいただいた意見を再度整理させていただいて、第3回策定委員会のときには計画の骨子、将来像を含めました計画の骨子を案という形で示していければと考えております。

#### ○懸田委員長

3回目の段階でそういうものが出てくるかどうかという、検討の余地があるんだと思いますけれども。そういうことで、次回の話も出てまいりましたけれども、8月が3回目ということですので、その間、3つのテーマで意見聴取会が開かれるということで、それはお手元の資料2の1ページ目ですね。別紙を見ていただくと、それぞれの地域資源、事業者間交流、支援機関との連携という意見聴取会が開かれ、事務局がまとめて検討事項として10年後の目指す将来像とか、施策の方向性等を策定委員会の中で作っていく。

#### ○事務局

今、別紙の資料でお示した体系について、この計画全体を作っていく中では、下から現状の把握、そしてそれに基づく意見出しをしてもらって計画案を作っていくという、ボトムアップ形式で考えておりますが、それぞれ事務局のほうで実態調査ですか意見聴取会、また追加の情報収集など行いお示していく中で、策定委員会に対してその都度それらの情報をお出ししながら検討していただくようなイメージをしております。そのため、8月上旬の第3回策定委員会では今日ご議論をいただいた内容を踏まえ、かつ3回の意見聴取会の報告を踏まえて事務局のほうから計画骨子案をお作りしていきたいと思っております。その中に合わせて目指す将来像につきましてもお示したいと考えているところです。

#### ○懸田委員長

そういうスケジュールで進んでいくわけですのでよろしくお願いいたします。

## 4 その他

### (1) 意見聴取会の調整状況について

—事務局から意見聴取会の調整状況について説明—

#### ○懸田委員長

これより第3回の策定委員会の前にこういった意見聴取がなされ、その報告も次回の委員会の中でなされるということ。さらに、それをまとめた事務局の案が出てくると考えていただければよろしいかと思います。

今日、この資料の中で委員の皆様方がこういうことを入れてくれ、欲しいというようなご意見があれば事務局のほうに言っていただければよろしいかと思います。

そういうのも反映して意見聴取会、策定委員会へと進めていきたいと思えます。他になにか、第3回までに、間が空くわけですけれども、その間、マクロな行政のほうで出るデータというのはないわけですね。

#### ○事務局

おそらく大きなそういった数値的なものとか統計的なものは出ないと思われまます。たとえば観光客の受入客数ですとか、そういった何か月ごとに出るような数値というのは出る場合もございますので、もし特徴的な動きがございましたらご報告させていただきます。

#### ○懸田委員長

計画の名称は第3回の策定委員会では、仮称が取れて出てくるのでしょうか。

#### ○事務局

仮称が取れた、名称案をお示ししたいと思っております。

次回の第3回策定委員会につきましては8月6日火曜日、午後2時からを予定してございます。

15:21 終了